

Q&A

臍部の腫瘍を指摘され吐血で入院となった高齢男性

解答：

進行胃癌と臍転移 (Sister Mary Joseph 結節)

解説：

緊急上部内視鏡では、胃角小彎に50～60mm大の周堤の崩れた潰瘍性病変を認めた。潰瘍底は不整で自然出血が見られた。同病変は内視鏡上進行胃癌 (Type 3) と診断し、生検を行った。生検組織の病理診断は、中～高分化型腺癌であった。入院前に皮膚科で行った臍部の生検病理組織でも同様に腺癌が認められており、臍部の腫瘍は進行胃癌の転移性病変と診断した。

臍転移があるためc-Stage IV (T4aN3M1) であり、出血コントロールと狭窄改善目的に胃全摘出術+R-Y再建術を施行し、ティーエスワン[®]による化学療法を行ったが、後に緩和医療へと移行した。

悪性腫瘍の臍へ限局した転移はSister Mary Joseph 結節といわれている。Sister Mary Joseph は1878年に聖フランシス修道会に入会し、St. Mary 病院 (Mayo Clinic の前身) に勤務した。1890～1915年まで手術室看護師として外科医

William Worrall Mayo の助手を務め、胃癌の臍転移の予後に関して評価を行った。この功績を称えて、Hamilton Bailey が1949年悪性腫瘍の臍転移を“Sister Mary Joseph’s nodule”と名づけたとされている。現在では胃癌に限らず内臓悪性腫瘍の臍転移のすべてに対して用いられている。

内臓悪性腫瘍の臍への転移経路としては、血行性、リンパ行性、尿管管遺残物を介する経路、腹膜播種、直接浸潤などがある。臍転移性悪性腫瘍の原発部位としては消化管癌35～65%、泌尿生殖器癌12～35%と報告されている。

臍部腫瘍を認めた場合、皮膚科医の協力を得て生検を行い、同時に原発巣について速やかに検索を行う必要がある。

本論文内容に関連する著者の利益相反

：なし

出題：岩下ちひろ (とちぎメディカルセンター
しもつが)

砂田圭二郎 (自治医科大学内科学講座
消化器内科学部門)